

6 水平リサイクル

2030年度までにボトルtoボトル比率50%を目指す 2024年度ボトルtoボトル比率は37.7%

ボトルtoボトルリサイクルは246千トン

2024年度のボトルtoボトルリサイクル量は、246千トン(前年度比14.7%増)でした。国内で販売された指定PETボトルに対するボトルtoボトル比率は、37.7%(前年度より4.0ポイント増)となりました。

水平リサイクルであるボトルtoボトルは、繰り返しリサイクル可能なので資源有効利用(繰り返し利用)という観点から優れたりサイクル手法です。

2021年4月に(一社)全国清涼飲料連合会が「2030年ボトル

toボトル比率50%宣言」を発表し、推進協議会も同じ目標を掲げ取り組んでいます。飲料メーカーの積極的な取り組みとそれに追従した再生PET樹脂の生産能力の増大により、さらにボトルtoボトルリサイクルが推進されると考えます。

ただし、回収された使用済みPETボトルに汚れボトルや異物が混入していると再生PET樹脂を製造する際に作業効率の低下や廃棄物が増えることから、質の良いPETボトルの回収が必要です。特に自販機からなどの事業系回収PETボトルの品質向上が課題となっています。

図12. ボトルtoボトルへの再生PET樹脂利用量とボトルtoボトル比率の推移



7 有効利用

2030年度までにPETボトルの100%有効利用を目指す 2024年度 指定PETボトルの有効利用率 98.6%

有効利用とは、使用済みPETボトルをリサイクルおよび熱回収も含め再資源として利用することです。

2024年度のリサイクル量は555千トンでした。リサイクルされなかった量は合計97千トンでその内訳は、リサイクル工程で発生する残渣が44千トン、残りの53千トンは可燃ごみ・不燃ごみとして排出された量として計算します。

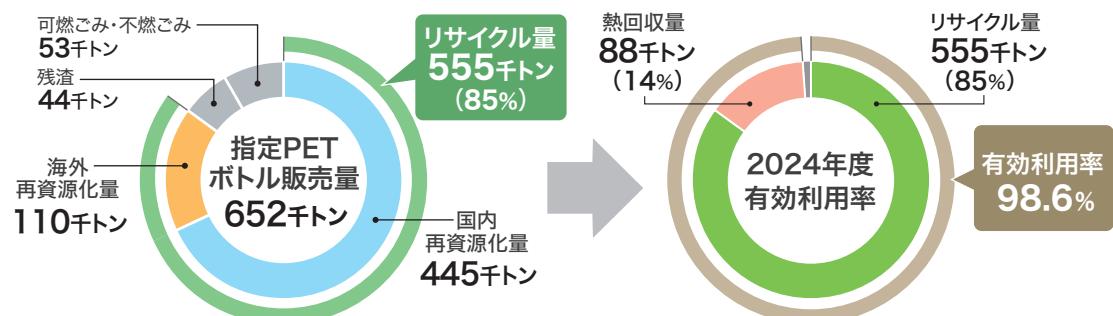
残渣で熱回収された量は38千トン(海外分は含まず)、可燃ごみ・不燃ごみで熱回収された量は環境省の可燃ごみの有効利用率

95%を使用し50千トン、計88千トンを熱回収量と推定しました。

その結果、2024年度の指定PETボトルの有効利用率は、98.6%になりました。残りは、概ね単純焼却や埋め立て処理されています。

$$\text{有効利用率} = \frac{\text{リサイクル量 } 555\text{千トン} + \text{熱回収量 } 88\text{千トン}}{\text{指定PETボトル販売量 } 652\text{千トン}} = 98.6\%$$

図13. 有効利用率の算出
(概略図)



※端数処理のため、数値が合わない場合があります。